

令和5年度 小論文 (第二部 商経学科) 解答例

問1 (40点)

【採点のポイント】

- ・正しい数値を解答していること。
- ・資料の内容を正確に読み取り、内訳を具体的に説明していること。

【解答例】

300 (万ドル)

内訳—ストーン氏が初の大仕事で得た報酬の100万ドル、マクドーナッツ夫人がベーカリーの内装工事のために当初の契約に基づいて支払った100万ドル、想定外の諸問題と出費のためにマクドーナッツ夫人からストーン氏の口座に振り込まれた100万ドル

問2 (80点)

【採点のポイント】

- ・近代以前に信用供与があまり行われなかった理由を資料から正確に読み取っていること。
- ・理由について、論理的に、わかりやすく説明していること。
- ・500字程度という条件を守っていること。

【解答例】

近代以前は、概して、自分たちの時代よりも過去のほうが良かったと思ひ、将来は今よりも悪くなるか、せいぜい今と同程度だろうと考え、将来が現在よりも良くなるとは信じられなかったからである。つまり、富の総量は減少するとは言わないまでも、限られていると信じられていた。経済全体のパイの大きさが変わらないとすると、例えば、あるベーカリーが繁盛すると他のベーカリーが犠牲になるというように、誰かの取り分が増えれば、他の誰かの取り分が減ることになる。信用とは、将来の収入を使って、現時点でのものを生み出す、つまり、現在のパイの大きさと将来のパイの大きさの差を意味するため、パイが大きくなると信用を供与する意味がない。そうなると、競争相手のシェアを奪い取

ってくることができると信じてもらえない限り、融資を受け取ることができず、融資を得られても、たいてい少額で短期かつ高利だった。信用が限られていたので、新規事業のための資金を調達するのが難しく、新規事業がほとんどなかったのも、経済は成長せず、経済が成長しなかったのも、人々は経済とは成長しないものだと思い込み、資本を持っている人々は相手の将来を信頼して信用を供与することをためらった。(510字)

問3 (80点)

【採点のポイント】

- ・資料の信用に対する考え方を踏まえていること。
- ・起業家として、経済活動を進めるために重要なことを具体的に述べていること。
- ・自分の考えを論理的に述べていること。

【解答例】

資料では、信用を想像上の財、すなわち現在はまだ存在しない財を特別な種類の金銭に換えることを認めさせるものとみなし、我々の将来の資産は現在の資産よりも比べ物にならないほど増大することを信用とする論理を前提にしている。このような資料の信用に対する考え方を踏まえた上で、私は、起業家として、信用に基づく経済活動を推進するためには3つのことが必要であると考えている。第一に銀行や投資家から信用を得ることである。的確に未来を予想し、消費者が求めているニーズを発見し、説得力あるビジネスプランを構築する。そして、このビジネスは将来性がある、世の中のために必要である、この企業は将来必ず優良企業に成長すると信じてもらうのである。第二にチャレンジ精神を持つことである。アサヒビール元社長である故樋口廣太郎は「前例がない、だからやる」を仕事の哲学とし、スーパードライを大ヒットさせ、アサヒビールを再生させた。人と違うことをしなければ、ビジネスで成功することは困難である。また成功しても同じことを繰り返すだけではいずれ衰退する。前例踏襲主義を打破し、常に新しいビジネスに挑戦する気持ちが重要なのである。第三に当然のことであるが、勤勉に働くことである。人生をかけて誠実に仕事に取り組めば、必ず優れたアイデアが思いつき、優秀な仲間も集まる。その仕事を愛して、情熱を持つ人が、最後は成功するだろう。

(587字)